

CCUSレベル別年収の概要(令和7年12月改定)

◎建設キャリアアップシステム(CCUS)の能力評価に応じた賃金の実態を踏まえ、公共工事設計労務単価が賃金として支払われた場合に考えられるレベル別年収を算出。

◎レベル別年収の試算の公表を通じて、技能者の経験に応じた処遇と、若い世代がキャリアパスの見通しを持てる産業を目指す。

◎目標値と標準値の2つの水準の値を設定し、適正な賃金として目標値以上の支払いを推奨するとともに、標準値を下回る支払い状況の事業者については、請負契約において労務費ダンピングの恐れがないか重点的に確認する。

ブロック別（全分野）（年収）

本資料に示す金額に法的拘束力はなく、支払いを義務付けるものではない。

	レベル1 （単位：万円） （標準値～目標値）	レベル2 （単位：万円） （標準値～目標値）	レベル3 （単位：万円） （標準値～目標値）	レベル4 （単位：万円） （標準値～目標値）
全国	385～523以上	420～587以上	444～645以上	550～719以上
北海道	356～483以上	388～543以上	411～597以上	508～665以上
東北	412～559以上	449～628以上	475～690以上	588～769以上
関東	412～559以上	449～628以上	476～691以上	588～769以上
北陸	391～532以上	427～597以上	452～657以上	559～732以上
中部	408～555以上	446～623以上	472～685以上	584～763以上
近畿	378～513以上	413～577以上	437～634以上	540～706以上
中国	329～447以上	359～502以上	380～552以上	470～615以上
四国	351～477以上	383～535以上	405～589以上	501～656以上
九州・沖縄	365～496以上	399～557以上	422～613以上	522～683以上
参考①特殊作業員	404～544以上	443～612以上	449～662以上	569～744以上
参考②普通作業員	342～462以上	375～519以上	381～562以上	483～631以上

<算出条件> CCUSレベル別年収は、公共事業労務費調査(令和6年10月調査)の結果をもとに、CCUSの能力評価分野・レベル別に分析して作成

・労務費調査においてレベル評価されていない標本点も経験年数と資格を基にレベルを推定（レベル1相当：5年未満、レベル2相当：5年以上10年未満、レベル3相当：10年以上又は一級技能士、レベル4相当：登録基幹技能者）

・労務費調査の各レベルの標本において、「目標値」の値は平均以上、「標準値」の値は下位15%程度の当該ブロックの年収相当として作成

各地方ブロックにおける
能力評価分野別のCCUSレベル別年収については、
「労務費に関する基準ポータルサイト」をご確認ください。

労務費に関する基準ポータルサイト
(<https://roumuhi.mlit.go.jp/>)

1. 地方ブロック別にレベル別年収を算出
(R5.6公表 : 全国一律 ⇒ R7.12改定 : 地方ブロック別)
2. 前回以降新たに認定された能力評価分野(11分野)を追加
(R5.6公表 : 32分野 ⇒ R7.12改定 : 43分野)
3. 最新の公共工事設計労務単価を適用
(R5.6公表 : 令和5年3月単価 ⇒ R7.12改定 : 令和7年3月単価)
4. 公表対象を「標準値」(従前の「下位」)及び「目標値」(従前の「中位」)に限定するとともに、「目標値」を「中位値以上」として表記